# リベラル新極へ、いま発進

ライブトーク・「もう一つの日本」を求めて

## 開　催　概　要

■ 主　　催　：　リベラル・フォーラム

■ 会　　場　：　ホテルニューオータニ　鶴・東の間

■ 日　　程　：　平成７年１２月１８日（月）

■ パネリスト　：
- 堺屋太一氏
- 海江田万里
- 仙谷由人
- 横路孝弘
- 下村満子氏
- 五島正規
- 高見裕一
- 鳩山由紀夫

■ 司　　会　：　小倉智昭

■ 進行スケジュール（開演　１９時　終了　２１時３０分）

| | | |
|---|---|---|
| 19:00～19:10 | ・リベラル・フォーラム挨拶 | 高見裕一 |
| 19:15～19:45 | ・基調スピーチ | 堺屋太一氏<br>～「大変な時代を語る」 |
| 19:55～21:30 | ・ライブトーク | 堺屋太一氏　下村満子氏<br>海江田万里　五島正規<br>仙谷由人　高見裕一<br>鳩山由紀夫　横路孝弘 |

# 「ゲストパネリスト」
# プロフィール

## ● 堺屋太一（さかいや・たいち）

作家・経済評論家

１９３５年　大阪生まれ。
１９６０年　東京大学経済学部卒業　通産省へ入省　通商調査課に所属。
１９６２年　万国博覧会を開催する運動を始める。
１９６３年　工業用水課に所属、尼崎などの地盤沈下対策を担当。
１９６５年　万国準備室所属。
１９６９年　鉱山石炭局工業政策課所属、海洋博覧会のプロジェクトを推進。
１９７１年　大臣官房企画室。
１９７２年　沖縄開発庁通産部　企画調整課長。
１９７４年　太陽熱利用などを研究する“サンシャイン計画”担当。
１９７９年１０月　通産省（工業技術院）研究開発官を最後に退官。現在に至る。
財団法人大阪２１世紀協会常任理事　財団法人アジアクラブ理事長
税制調査会委員　国会等移転調査会委員　阪神・淡路復興委員会委員

【主な著書】　油断！（日本経済新聞社）
「新都」建設～これしかない日本の未来～（文藝春秋）
日本とは何か（講談社）　組織の盛衰（ＰＨＰ研究所）
「大変」な時代～常識破壊と大競争～（講談社）

## ● 下村満子（しもむら・みつこ）

フリージャーナリスト

東京生まれ

１９６１年　慶應義塾大学経済学部卒。
ニューヨーク大学大学院修士課程終了（経済学）
１９６５年　朝日新聞社入社。「週刊朝日」編集部。
１９８０年　朝日新聞ニューヨーク特派員。
１９８２年　国際報道に貢献した記者に与えられるボーン・上田国際記者賞を女性として初めて受賞。中近東、アメリカ、ヨーロッパ、中国、旧ソ連などに特派され、数々のインタビューやルポルタージュを連載、また日米関係、女性問題、ジャーナリズム問題などに取り組む。
１９８７年　日本翻訳出版文化賞受賞。
１９８７年　ハーバード大学ニューマン特別研究員。
１９９０年　「朝日ジャーナル」編集長、朝日新聞編集委員。
１９９４年１１月　朝日新聞社退社、フリーのジャーナリストとなる。
同時に、（財）東京顕微鏡院理事長としても活躍。

●司会

# 小 倉 智 昭

☆プロフィール

- 本　　名　　小 倉 智 昭
- 出 身 地　　秋田県秋田市
- 生年月日　　昭和２２年５月２５日
- サ イ ズ　　１７３cm　　６７kg
- 学　　歴　　独協大学　仏語科
- 血 液 型　　Ｂ型

☆略　　歴

- 東京１２チャンネル（現 テレビ東京）アナウンサー出身。
- 昭和５２年　大橋巨泉事務所所属。
- 昭和６０年３月結婚。

〔特　技〕　色々な声を使い分ける。
　　１秒間で１８文字分の原稿をしゃべれる。

〔記　録〕　陸　上（高校）１００m　　１０秒９
　　水　泳（高校）１００m（自由型）　１分０秒１
　　スキー　　一　級

〔趣　味〕　ゴルフ、競馬、オーディオ、レコード鑑賞、音楽（ロックバンド）
　　ベース、ヴォーカル（キャリア７年）、クレー射撃

☆主 な 出 演 番 組

●テレビ

Ｃ　Ｘ　「どうーなってるの?!(月~金 9:55~11:25)」「平成初恋談義」
　　「木曜ファミリーランド（どうーなってるの?!　全日本ＮＧ家族大賞）」
　　「運命ゲーム(MA)」「FNS番組対抗ＩＮＧ名珍場面大賞」

Ｔ　Ｘ　「タミヤＲＣカーグランプリ」「やっぱり不思議!?」
　　「徳光和夫の情報スピリッツ」

ＮＴＶ　「キャッチ」「こんなモノいらない」「いつみても波瀾万丈」

ＭＢＳ　「世界まるごとＨＯＷマッチ(MA)」「世界まるごと2001年(MA)」

ＡＮＢ　「微子の部屋」

ＴＢＳ　「世紀の一瞬！衝撃の映像クラッシュ(MA)」

●ラジオ

Ｑ　Ｒ　「小倉智昭の夕焼けアタックル(月~金 16:00~17:50)」
　　「小倉智昭のニュースアタックル」「小倉智昭の時計の針はいま何時？」
　　「小倉智昭のとことん気になる11時」（ギャラクシー賞受賞）

ＳＴＶ　「丸出し好奇心」

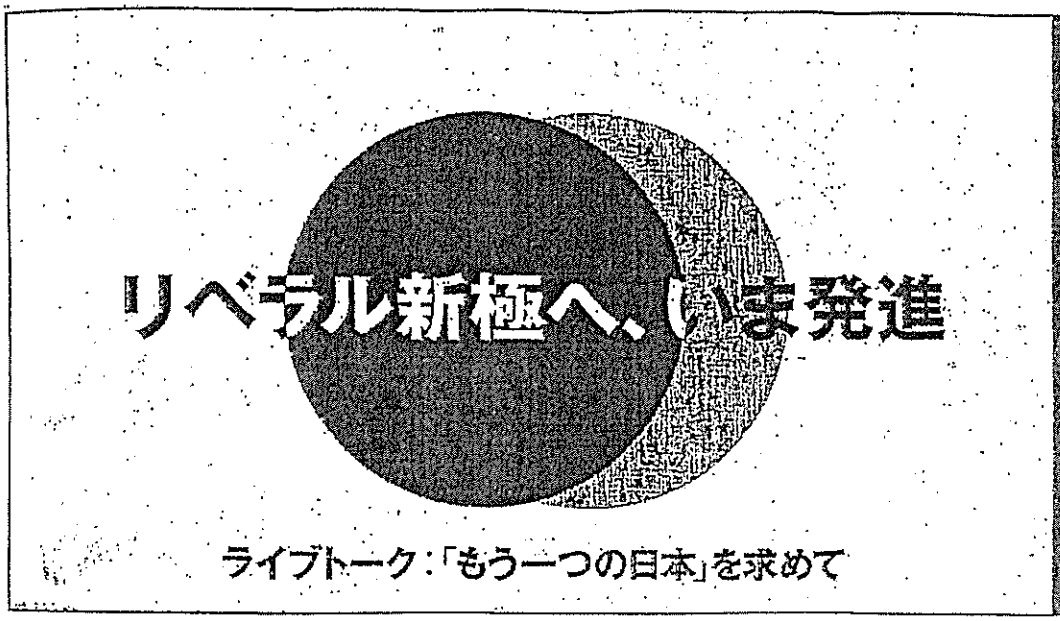
●Ｃ　Ｍ

　　「社会保険庁」「ミツカン　追いがつおつゆ」

# リベラル新極へ、いま発進
## ライブトーク：「もう一つの日本」を求めて

堺屋太一 氏他
&
リベラル・フォーラム
海江田万里、五島正規、仙谷由人
高見裕一、鳩山由紀夫、横路孝弘

**12月18日(月) 午後7時開演**
**ホテルニューオータニ「鶴・東の間」**
入場料：2,000円（税込）
定員：300名　氏名、年齢、職業、住所(ご自宅)、電話・ファックス番号を明記のうえ、ファックスで。<03-5275-7085>
発送をもって、当選とかえさせて頂きます。
〆　切：12月12日(火)　午後6時
問い合わせは、TEL 03-5275-7081
リベラル・フォーラムまで。




堺屋太一氏他
&
リベラル・フォーラム
海江田万里、五島正規、仙谷由人
高見裕一、鳩山由紀夫、横路孝弘
12月18日(月)午後7時開演
ホテルニューオータニ「鶴・東の間」
入場料：2,000円（税込）
定員：300名　氏名、年齢、職業、住所(ご自宅)、電話・ファックス番号を明記のうえファックスで。<03-5275-7081>発送をもって、当選とかえさせて頂きます。
〆　切：12月12日(火)　午後6時
問い合わせは、TEL03-5275-7081
リベラル・フォーラムまで。

# リベラル新極へ、いま発進

## －私たちの決意－

リベラル・フォーラム
海江田万里、五島正規
仙谷由人、高見裕一
鳩山由紀夫、横路孝弘

### 私たちの決意

いま、明治維新以降の近代日本をかたどってきた政治・経済・社会のシステム全体が音を立てて崩れようとしている。やがて訪れる新しい日本がどのような姿になるのか依然明らかでない中で、未来に対する「不透明感」が人々を襲い、不安と戸惑いが漂っている。しかし、その一方で希望を求めて「新しい社会」の到来を期待してる人たちがいる。経済や政治の構造変動はもとより、家族や男女の関係の変容をも伴う今日の大変化を受けて、より望ましい「もう一つの日本」を創り出そうとする新たな動きが全国各地で生まれている。

近代日本が築き上げてきた中央集権型システムの変革がいまほど求められている時はない。官僚主導型のこのシステムは、社会の安定と保護にそれなりの役割を果たしてきたものの、ある種の温情主義（ﾊﾟﾀｰﾅﾘｽﾞﾑ）を蔓延させて市民の自立や自主性を損ね、人々の依存心を高めるものとなってきた。その結果、社会の不正や日本の未来に対する強い責任意識を欠いた受動的な組織と人間を生み落としてきた。

リベラリズムの立場に立つ私たちは、その制度や政策がどれほど安定して見えようとも、人間の自立を阻害し、依存心を増幅する現在の官僚主導型システムをそのまま容認することはできない。人々が自立し、個人の尊厳を大切にする新しいシステムが確立されるまで、現状に対する変革者として、その歴史的使命を果たしていく必要がある。政界や官界の閉ざされた仕組みがデモクラシーの運命を左右する現行の「市民なき政治」を改革し、市民に開かれ、市民と共に考え行動する新しい質の政治の姿を模索したいと思う。

明治の変革期は、次々と主役が交代し、改革を志す人々が諸藩の枠を踏み越えた自由で闊達なネットワークを創出して「新日本」を築き上げた時代であった。２０世紀の末に立ちすくむ私たちもまた、リスクを覚悟で自前のダイナミックなネットワークを構築し、まさに「第２の維新／自由民権」とも言うべきこの変革のときを引き受け、「もう一つの日本」を創造する改革者としての道を自らの手で切り開いていく決意である。

大切なことは、日本の未来のために、現代に生きる私たち自身が決断（ディシジョン）しなくてはいけないということであり、変革期に決断しないことは、世界の流れに責任を持つことを回避するものであるという姿勢である。

## リベラリズムの立場

リベラリズムの立場から、私たちは以下の５つの基本姿勢を提示する。これらは、これからの新しい政治を担い、もう一つの日本を創造するうえでの私たちの政治的立場を表現するものである。

第一に、リベラリズムとは「信頼の政治」のことである。

政治家や政党は選挙や事件のたびに「信頼される政治」の実現を掲げてきた。しかし、私たちリベラリストは「信頼する政治」の実現を志す。それは、「官」による「民」の不信、中央による「地方」への不信、プロたちの「素人」への不信を前提としたこれまでの官僚主導型政治、権威主義的政治を克服し、「民」の可能性と地域の力を信頼し、アマチュアの能力を信頼する＜自治と参画の政治＞を実現することである。歴史認識ではアジアの人々を信頼し、ＯＤＡ活動では開発途上国の人々の力を信頼する、平和志向の国際政治をめざす。

第二に、リベラリズムは「市民の自己統治（自治）」を基本に据える。

リベラリズムは一切のパターナリズムを排する。それは、人々の依存心を強め、その独立心を萎えさせ、人間の尊厳と自立を損なうからである。市民の自立はデモクラシーの基盤であり、尊厳は人間の価値そのものである。

依存心を高める制度のすべてを見直すとともに、市民参画型の政治を実現し、市民自治に根付いた新しい政治文化の確立をめざす。

第三に、リベラリズムは「情報の公開と共有」を大切にする。

一部の政治家や組織人、官僚が情報を独占する時代を終わらせなくてはならない。日本社会にデモクラシーを定着させるためにも、情報を市民に開かれたものにすることが重要であり、政治の場において市民と政治家が情報を共有することが必要不可欠である。充実した情報公開法の制定を促し、透明度の高い日本社会の実現に取り組む。

第四に、リベラリズムは「新しい契約とルール」の形成をめざす。

先ず、現行の国内制度を抜本的に見直し、国際社会と調和する世界に開かれたルールへの転換を進める。また、保護主義的な産業政策や規制制度を大胆に見直すとともに、女性の権利など市民的権利の確立を通じて世界に貢献する。

この目的のために協力しあう人々や団体との連携契約を結び、その契約に見合った支援を政治が行う。ルールと契約に基づく新しいスタイルの政治の実現である。

第五に、リベラリズムは「ネットワーク型政治集団」をめざす。

強力な中央本部とその方針に一体化した党員を大量に抱える組織政党は過去のものである。新しい時代に臨む政治活動は、緩やかな会員システムを通じて参画する仕組みとともに展開され、会員はこれまでのような党員の義務を負うことはなく、集団代表者の選挙や議員候補者確定のための予備選挙、あるいは新しい政治集団の基本政策について投票権や発言権を行使することができる。

新しい政治集団の活動は基本的に地域が担う。その場合、無数のＮＰＯ関係者のネットワークが地域の政治活動を担うことになろう。

## 改革の基本方向

抜本的な社会改革を進めて、近代日本を超える全く新しい国づくりの大事業を始める時である。このためには、既存の政党や組織の枠を超えた、一人ひとりの政治家や自立した市民の政治選択が求められている。

これまでの＜委任する政治＞から＜参画する政治＞への転換、すなわち自己統治（「自治」）の時代への転換を進める。

### ①反集権、民権政治への転換

官僚の温情と裁量に依存する政治からの脱却を推し進めて、市民が自主的に担う新しい政治を創造する。このため、行政改革と分権改革を実施し、スリムで無駄のない行政の実現と多様な参画システムを整備する。

### ②反画一主義、創造型社会への転換

個人の自由な選択が可能となる柔軟な社会の実現に向け、教育制度改革や規制緩和改革を進める必要がある。教育行政の分権化、リカレント教育の拡充、歴史教育の充実などの「教育改革」、第三者型の監視機構を伴った大胆な規制の撤廃を断行する。

### ③憲法政治の国際化：一国主義の拘束からの自由

産業経済活動の国際化・地球市民社会の到来とともに現行憲法の普遍的精神を世界に生かす。社会経済理事会の改組とＯＤＡの拡充を進めて非軍事的手段による国際協力・国際平和の基礎づくりを積極的に推進する。

### ④脱専門家主義：新しいアマチュアリズムの復活

都市計画にかかる市民参加型のマスタープランづくりや、高齢者介護のケアマネジメントシステムは、当事者としての素人の参画を促すシステムへの転換であり、新しいアマチュアリズムの台頭である。内容豊かなＮＰＯ法案の成立とボランタリーな市民活動への支援の充実を進めて、市民参画型の政治を充実する。

⑤社会全体のディスクロージャーの推進

情報ネットワーク社会はそれ自体で官僚や政治家や組織人だけの情報独占を打ち壊しつつあるが、行政情報と歴史情報の公開が市民政治の基盤であるという認識のもと、世界的にも充実した情報公開法の実現をめざす。金融政策などについも規制緩和とディスクロージャーが基本である。

開かれた歴史認識

新しい政治勢力はその豊かな歴史認識で統一されていなくてはならない。

東欧やソ連の崩壊は、市民に歴史の事実を直視させない社会には市民政治、すなわち民主主義が育たず、市民の成熟とともに崩壊する運命にあることを教えている。日本は、近代西欧の歴史を借りて日本の近代国家を創り上げてきたが、アジアの人達との間に未だ歴史の共有化を行っていない。また、過去の出来事に対して正面から向かい合うことを避けてきた。日本のデモクラシーの将来と世界の人々との信頼関係の確立のために、今一度歴史の事実を掘り起こす必要がある。

# リベラル・フォーラム活動経過

1995. 6. 21　北海道札幌市「札幌後楽園ホテル」
海江田万里・高見裕一・横路孝弘

6. 23　徳島県徳島市「郷土文化会館」
海江田万里・鳩山由紀夫・横路孝弘・仙谷由人

7. 25　東京都千代田区「ザ・フォーラム」
海江田万里・五島正規・仙谷由人
高見裕一・鳩山由紀夫・横路孝弘

9. 16　香川県高松市「高松国際ホテル」
海江田万里・五島正規・仙谷由人
高見裕一・鳩山由紀夫・横路孝弘

9. 22　静岡県静岡市「マリーベル平安閣」
海江田万里・鳩山由紀夫

10. 9　兵庫県神戸市「生田神社会館」
海江田万里・仙谷由人・高見裕一
鳩山由紀夫・横路孝弘

10. 19　新潟県新潟市「新潟グランドホテル」
海江田万里・鳩山由紀夫・横路孝弘

10. 28　大阪府大阪市「リーガロイヤルホテル」
海江田万里・高見裕一・横路孝弘

11. 9　福岡県福岡市「都久志会館」
海江田万里・高見裕一・横路孝弘

11. 12　岡山県岡山市「岡山ロイヤルホテル」
鳩山由紀夫・横路孝弘

11. 15　千葉県千葉市「千葉市民会館」
海江田万里・横路孝弘

11. 25　栃木県宇都宮市「栃木会館」
海江田万里・横路孝弘

11. 28　茨城県日立市「サンシャイン常陽」
鳩山由紀夫・横路孝弘

12. 9　福井県福井市「福井県民会館」
海江田万里・高見裕一・横路孝弘

1996. 1. 22　愛媛県松山市「えいめ共済会館」
横路孝弘

# 「リベラル・フォーラム」発起人
# プロフィール

## ● 海江田万里（かいえだ・ばんり）

衆議院議員（東京市民２１代表委員）経済評論家

１９４９年　東京生まれ。
１９７２年　慶應義塾大学法学部政治学科卒業。
　同８月　参議院議員野末陳平氏の秘書となる。
１９８６年５月
　同事務所退職。同８月に独立して経済評論家としてテレビ・ラジオ・新聞・雑誌などを舞台に活躍。
１９９３年　衆議院議員当選（１期）。日本新党広報委員長などを歴任
１９９４年　会派「民主新党クラブ」を結成
１９９５年　ローカルパーティー「東京市民２１」を結成

【主な著書】　ポストバブル時代の経済戦略（時事通信社）
　成功する人はここが違う（東洋経済新報社）
　手にとるように税金のことがわかる本（かんき出版）

## ● 五島正規（ごとう・まさのり）

衆議院議員（日本社会党副書記長）

１９３９年　神戸市生まれ。
１９６６年　岡山大学医学部卒業。
１９７０年　高知県立宿毛病院内科医長、幡西地域保険医療センター所長。
１９７４年　高知県職業センター「職業・公害病研究所」所長、
　日本社会党に入党。
１９７９年　医療法人防治会四国勤労病院院長・理事長。
１９８２年　労働者住民医療機関連絡会議副議長。
１９９０年　衆議院議員（高知全県区）第１位にて初当選。
　日本社会党高知県本部顧問。
１９９１年　日本社会党シャドーキャビネット福祉労働副委員長。
１９９３年　日本社会党国民生活局長。
１９９３年　衆議院議員当選（連続２期）

## ● 仙谷由人（せんごく・よしと）

前衆議院議員

１９４６年　徳島県生まれ。
１９６４年　東京大学教養学部文科Ｉ類入学。
１９６６年　東京大学法学部進学。
１９６８年　司法試験合格。
１９６９年　司法修習生となる。
１９７１年　弁護士登録（東京第二弁護士会）三原橋法律事務所所属。
１９８３年　仙谷・石田法律事務所開設。
１９９０年　衆議院議員初当選、大蔵委員理事、シャドーキャビネット官房副長官
　　ニューウェーブの会初代代表幹事、シリウス政策委員長。
１９９３年７月　　衆議院総選挙再出馬・次点。
　　同年１０月　社会党徳島県本部委員長。
１９９５年１０月　社会党徳島県本部委員長退任。
現　在　　弁護士活動と共に次期衆議院総選挙（徳島１区より出馬予定）に
　　向けて活動中。

## ● 高見裕一（たかみ・ゆういち）

衆議院議員（新党さきがけ渉外局長）

１９５６年　神戸市生まれ。
　　追手門学院大学在学中に神戸で関西リサイクル運動市民の会を設立。
１９７７年　日本リサイクル運動市民の会を設立し、全国規模の環境保護活動を
　　展開。
１９８８年　有機農産物の宅配ネットワークサービスをスタート。
１９９３年　衆議院議員選挙に兵庫１区から初出馬（日本新党公認）初当選。
１９９４年　日本新党離党。新会派・民主の風を旗揚げ、その後新党さきがけに
　　合流。
１９９５年９月　仏核実験に反対し、超党派議員の事務局長としてタヒチでの抗議
　　活動に参加。
現　在　　衆議院議員運輸委員会理事。災害対策特別委員会理事。
　　新党さきがけ交流総局局長。労政局局長。企画財政局次長など。

● 鳩山由紀夫（はとやま・ゆきお）
衆議院議員（新党さきがけ代表幹事）

１９４７年　東京生まれ。
１９６９年　東京大学工学部計数工学科卒業。
１９７６年　スタンフォード大学工学部博士課程修了。
　　東京工業大学経営工学科助手。（１９８１年退職）
１９８１年　専修大学経営学部助教授。
１９８６年　衆議院議員（北海道４区）初当選。
１９９０年　北海道開発政務次官。（１９９１年退任）
１９９３年　衆議院議員（北海道４区）３期目当選。
　　内閣官房副長官就任。（１９９４年退任）
　　新党さきがけ代表幹事。

● 横路孝弘（よこみち・たかひろ）
前北海道知事

１９４１年　北海道生まれ。
１９６６年　東京大学法学部卒。
１９６５年９月　司法試験合格。
１９６６年４月　司法修習生。
１９６８年４月　弁護士開業（札幌弁護士会所属）。
１９６９年１２月　衆議院議員当選（連続５回）。
１９８３年３月　衆議院議員辞職。
１９８３年４月　北海道知事当選、１９９５年４月まで３期務める。